

日が差し込む気温45度の密閉された車内などは、3歳児はわずか13分で熱中症に。名古屋工業大と金沢医科大学の研究グループが8日までに実施したコンピュータによるシミュレーションで、こうした分析結果が出た。

車内に放置された子どもが熱中症になるケースが各地で問題となる中、わずかな時間の放置にも警鐘を鳴らす結果で、米科学誌「電磁科学アカデミー」に掲載予定という。

大人では熱中症になるのに同じ条件で1時間以上かかり、名古屋工大大学院の平田晃正准教授は

3歳児は13分で熱中症に 気温45度の車内放置で

2011. 8.

「子どもは、大人の感覚以上に短時間で熱中症になる危険性がある」としている。

体温の上昇や発汗に伴い、体内から体重の約3%の水分が失われると熱中症になるとされる。

研究グループは、3歳児と成人について発汗や血流調節などの体温調整機能を計算し、気温45度と40度でいずれも太陽光を浴びた条件下で、水分が失われる時間を調べた。3歳児の場合、45度で13分、40度では17分だった。成人はいずれの条件でも1時間以上かかった。

子どもは体重当たりの体の表面積が大人より大きいいため、気温の影響を受けやすいのが原因という。

短時間でも危険です